



「ロジちゃんの防災エコグッズ」の 発行に当たって

CCなかはら・地球にいいことプロジェクト 代表 柘植 正躬

東日本大震災に代表されるように、ライフラインが切断された時、回復されるまでの期間（最低3日間あるいは最近では高層マンションでは10日間）は、自分の命を自分で守る必要があります。

そんな時身近にある「新聞紙」「ダンボール」「ごみ袋」「ラップ」「レジ袋」等を使えば、簡易サンダル、簡易防寒着、簡易トイレ、簡易クッション等として活用できることは意外に知られておらず、多くの方は作り方も判らないのではないかと思います。

そこで、日ごろから地域の地球温暖化防止活動の一環として、省エネ、エコライフ等の推進活動を進める私たち「CCなかはら」は、平成25年度の中原区市民提案型事業として、中原区役所まちづくり推進部企画課と協働で、身近な役に立つ防災エコグッズについて、作り方から效用まで自ら調査・体験しました。その結果をまとめ、防災情報として区民に提案したいと考えました。そして区民に広くこの情報を、手元において活用してもらうために冊子にまとめました。

また、大震災等に直面した時、標準的な防災用品についても、その適確な使い方も分らないのではないかと思います。防災エコグッズと合わせて、これらの使い方や、これは持っていれば災害時に便利で安心というお薦め品や、身近な材料を使っの傷の手当ての仕方も紹介しております。

少しでも、この冊子が防災情報として区民の皆様に活用されれば幸いです。

「防災エコグッズ」とは

災害発生時にライフラインが切断された時、身近にある「新聞紙」「ダンボール」「ごみ袋」「ラップ」「レジ袋」等を使って簡易サンダル、簡易防寒着、簡易トイレ、簡易クッション等として活用できます。これらはまさに手作りの防災用品といえます。

「CCなかはら・地球にいいことプロジェクト」とは

中原区を中心にヒートアイランド対策、地球温暖化防止のため、普及啓発、環境学習・環境教育、実践、省エネ推進の活動を行う市民団体。

メンバー構成は、中原区を中心に現在14名が登録。主に地域環境リーダー育成講座修了生、川崎市地球温暖化防止活動推進員、まちづくりに関わる人 常時8～10人が活動。

冊子の編集委員（五十音順）……板倉 徹・内ヶ崎 博子・笹子 まさえ・鈴木 恵美子・

竹井 斎・柘植 正躬・山本 善保・由良 直子



なかはらエコ推進大使
ロジちゃん

もくじ

「ロジちゃんの防災エコグッズ」の発行に当たって…………… P1

1 お薦め防災エコグッズの作り方

簡易サンダルをつくる…………… P3

簡易防寒着をつくる…………… P3

簡易トイレをつくる…………… P5

★参考資料…消臭・除菌・消毒…………… P8

簡易クッションをつくる…………… P9

2 身近な材料 ラップでの防災エコグッズ…………… P10

～その使い道、使い勝手～

3 災害食のローリングストック法…………… P11

～「置いておく」備えではなく「使いまわす」備え～

4 防災用品 知っておいて得なこと…………… P12

～ラジオ、携帯照明、携帯電話充電等～

5 身近な材料での応急手当て法…………… P13

6 簡易猫キャリーをつくる…………… P15

7 中原区の防災マップ…………… P17

